



# 農業と自然を体験! 砥山農業小学校通信

## この夏最高気温の下 ジャガイモ収穫

今夏、最高となる33℃の予報が出ていた炎天下で4回目の授業が始まりました。

前回に作った縄文土器はスタッフの手によって一か月かけてきれいに乾燥させられ、焼く準備が整いました。皆の期待を込めて火入れが行われました。

本日のメインはジャガイモ収穫です。例年に比べ大きなイモが多く収穫量も予測以上で、うれしい作業となりました。

午後からは、ストーンクラフト制作。縄文土器とともに夏休みの自由研究の助けになるといいですね。



【火が入った陶芸作品野焼き】



【炎天下のジャガイモ収穫】

### 陶芸作品 野焼き 10:20~

できるだけ縄文時代(BC15000年～BC2300年頃)の素朴な陶器づくり



を体験しようと昨年から行っています。縄文土器は、当時食べ物を煮たり貯蔵するための貴重な道具。土器づくり成功の決め手は粘土をこねて形造った後の約一か月の自然乾燥。スタッフは上の写真のように土を盛り上げ野焼きの場所を作ってくれました。藁を敷いたところに乾燥した土器を並べ、さらに藁を載せ、燃えやすい小枝、薪という順に燃料を積み上げました。そして今回一日かけて薪を燃やし焼き上げます(野焼き)。作品は次回(9月11日)に受け取ることができます。出来上がりが楽しみ。

を出していました。感動の一瞬です。さっそく畠の両側に分かれて茎を引き抜き、手で土をかき分けイモを掘り出し、皆で夢中になって作業。大人のこぶしほどもある大きさのイモが次々とかごに入れられすぐにコンテナもいっぱいになりました。男爵4、北あかり3、アンデスレッド3のコンテンダがトラックに積まれました。合計で約200kg.もの収穫です。種イモを植えてちょうど4か月目の豊かな収穫を実感。

このジャガイモは昼食時に皆で試食し、好きな量だけ持ち帰ることができました。



### 虫取りゲーム 11:30~

炎天下の作業で疲れているにもかかわらず、誰もが虫を追って楽しそうに園内を駆け回りました。



比較的大人に虫嫌いが多いのは“大人になるにつれ昆虫に触れる機会がなくなっていくと、本来の異質で気持ち悪いという感情により、苦手になっていく”といわれています。捕まえた虫はすべて放すことにより、自然と命についても考えるゲームでした。1位は木村雄太君、2位斎藤真桜さん、3位村木良君。

### ジャガイモ収穫 10:40~



スタッフによって「北あかり」のマルチが剥がされると丸々としたジャガイモが少しだけ顔

### ダイコン種まき 11:10~

今回種を植えた秋大根は“源助大根”という種類です。この大根を作り出した愛知県の井上源助氏の名前から命名され、外見の特徴は太く短い「んぐり」とした形です【右写真】。今では石川県の伝統野菜として知られ、肉質は緻密で柔らかく、おでんやぶり大根、浅漬けに最適な大根といわれています。10月の交流会に使う予定です。



### ストーンクラフト 13:00~



高温の天気を考慮して豊平川の河原は見送られました。そのため、校長先生が準備した石を用いて制作しました。あらかじめ作品のイメージを考えてきたお友達もいて、素材となる石選びもスムーズに。またホットボンドの使い方を先生から教わりとても上手でした。絵具での彩色もていねいでどの作品も完成度の高いものになりました。

## 8月7日の活動



自然乾燥した土器



枯草や枝を積み上げ



火をつけます



夕方まで焼き続けます



ジャガイモ収穫が始まる



根にジャガイモが付いてきます



うれしい収穫



たくさん働きました



すぐにいっぱいに



虫取り 力を合わせて



気になる結果



ジャガイモ試食 “いただきます”



味わっていただきます



ストーンクラフト 石選び



組み合わせを検討中



完成です



自分の作品に満足

発行:砥山農業小学校 (代表 桜井学)

住所:〒061-2275

札幌市南区砥山126番地

八剣山果樹園内

電話・FAX: 011-596-2280

E-mail:info-h@hakkenzan.jp

<http://www.hakkenzan.com/nosyo/>